

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第七期第3回豊島区生涯学習推進協議会
事務局(担当課)		文化商工部学習・スポーツ課
開催日時		令和5年7月27日(木)午後6時30分～8時
開催場所		豊島区役所8階 教育委員会室
議 題		1. 開会 2. 小委員会の報告 3. 評価について 4. 今後の進め方について 5. 閉会
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0 人 非公開・一部非公開の場合は、その理由
		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
		<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	高井正(会長)、中上亜樹(副会長)、齋藤 知明(Zoom参加)、有島由己子、荘司哲夫、大澤友美、白根由貴、鈴木晴美
	そ の 他	
	事 務 局	文化商工部長、学習・スポーツ課長、 学習担当係長(生涯学習)兼社会教育主事、生涯学習指導員

1. 開会

2. 小委員会の報告（報告書を配布）から

委員

内容、いろいろな観点から評価する。

副会長

教えている立場の先生も評価するといいい。多角的になる。ただし負担にならない程度に。多様な主体による評価、評価をオープンにしていくことも大事。

会長

長く学んでいる人の自分の変化を中期的な評価や長期的な評価をし、講師も含めて重層的に見る。参加した講師からの評価や多様な主体の評価があるといいい。評価は改善につながるので、よく整理をする。学びの一環として、より具体的に、どうバランスよく評価をしたら求める評価となるのか、といったよりよい評価をしていくことを考える。

3. 評価について

資料 NO. 3-2 「評価についての考え方（提案）」について

会長

質的評価、量的評価、定性的な評価

社会教育的評価として、カテゴリーが違うものを多面的に評価し、ビジョンの求める評価としてよりよい評価をしていく。

委員

学びの成果の事例「としま養成ガイド」

評価の考え方

目的の設定、気づきの記述、達成度など、項目別にそれぞれの成果を見ていく。

個人が主体、目標を設定して評価

目標を設定→事前事後アンケートの実施で目標は到達できたのか、気づきなど把握。
→自己評価をする。自己評価を確認しあいながら進める。

委員

目標を意識することが大事

スポーツ推進員では単発の事業が多く目標や達成を知ることは難しいが、意識変容を見ることはできる。事後変化をつかむことが自己評価にとっては大事。

委員

事業内容によっては、同じ評価ではできない。事業を実施する地域文化創造館やとしまコミュニティ大学は、数値的なものを把握して評価し、短期的、長期的、受講する前と後でどうだったのかも考えて評価する。質的評価は、学習者にとってどうだったのか。学習評価の質的評価は、満足度、実生活の中で役に立つものなのか。人によっては、評価されたくないという思いの人もいるのではないか。

会長

目標として、評価の対象は企画者と参加者と両方にある。

ただ、学習者としては「～こういう人になる」といった目標まで求めない人がいることも忘れてはいけない。養成ガイドの例では、ガイドにならないが学習は継続したいという人もいる。これも評価の対象。

委員

企画者のふりかえりとして評価を実施したい。

参加者のアンケートは、項目を挙げすぎると答えるのが難しい。

会長

批判するだけが評価ではなく、評価はいいことはいいというものでもある。外部からの評価は大事。野瀬委員からは、3つの施策に入れ込んで評価する必要があることと、支援者側の評価が大事との意見。

4. 今後の進め方について

会長

・量、定量

具体的な例を挙げる…（例）参加者数、申込者数、アンケートなど
量はどういうところを把握したらよいのか

・定性評価

主催者、学習者、学習支援者、講師など主体が複数。

1回だけ見るような短期的なもの、中長期的なものをどう諮っていくのか。

会 議 の 結 果	<ol style="list-style-type: none"> 1. 今後の進め方については、マナビト生の方にも協力していただき、いろいろな視点を踏まえて考える。 2. 具体的には小委員会で決めてたたき台を提案し、その後メールにて意見を出してもらおう。 3. 年度末までに、対外的に示せるものを作成する。
提出された資料等	<p>資料 No.3-1 評価について各委員からのご意見</p> <p>資料 No.3-2 評価についての考え方（提案）</p> <p>参考資料</p>

	<ul style="list-style-type: none">・ 第七期第2回豊島区生涯学習推進協議会小委員会報告書・ 第七期第2回豊島区生涯学習推進協議会報告書・ 地域文化創造館エリアガイドボランティア事業 学習評価に関する資料
--	--